

第 143 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部会議

議事概要

日 時：令和 4 年 1 月 13 日（木）13：30～14：30

場 所：県庁 6 階 第 1・2 特別会議室

・会議の概要

<報告事項>

- ◇ 県内における新型コロナウイルス感染症の感染者数や広がり状況、医療提供体制等について、それぞれ所管する本部員から報告があった。

<その他>

- ◇ 国の事務連絡の変更に伴う沖縄県対処方針の変更について、総括情報部から報告があった。
- ◇ 学校 PCR の取扱について、総括情報部及び教育委員会から報告があった。
- ◇ 濃厚接触者の就業制限緩和について、企画部から報告があった。
- ◇ 国立感染症研究所による沖縄県のオミクロン株確定例の濃厚接触者疫学調査により得られた情報について、総括情報部から報告があった。
- ◇ 在日米軍における新型コロナウイルス感染症対策について、知事公室から報告があった。

1 参加者

玉城 知事、謝花 副知事、照屋 副知事、島袋 政策調整監、金城 知事公室長、池田 総務部長、宮城 企画部長、普天間 環境企画統括監、金城 県警警備第二課長、大城 保健医療部長、名渡山 子ども生活福祉部長、下地 農政企画統括監、金城 土木企画統括監、嘉数 商工労働部長、宮城 文化観光スポーツ部長、大城 会計管理者、佐次田 教育管理統括監、我那覇 病院事業局長、棚原 企業局長、諸見里 医療企画統括監、糸数 保健衛生統括監、高山 政策参与、テレビ会議システム利用：木村 宮古保健所長、比嘉 八重山保健所長

2 報告事項

(1) 沖縄県内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

➤ 総括情報部から最新の新規陽性者及び療養者の状況について報告【資料 1】

- ✓ 1/12 の新規発生 1,644 名、合計 60,628 名、入院中 305 名、うち重症 0 名、うち中等症 146 名、入院・療養等調整中 2,904 名、宿泊施設療養中 475 名、自宅療養 5,913 名、入院勧告解除確認中 1 名で療養中患者計 9,598 名となっている。

(2) 米軍基地内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

➤ 総括情報部から、米軍基地内における発生状況について報告。【資料 2】

- ✓ 1/12 時点、米軍基地内で 295 名。

(3) 沖縄県内及び全国の感染状況について【資料 3、3-1~3-10】

➤ 総括情報部から、警戒レベル判断指標の状況や各種分析資料について報告。

- ✓ 判断指標について、新規陽性者数（直近 1 週間合計）はレベル 4、病床使用率はレベル 2、重症者用病床使用率はレベル 3 となっている。
- ✓ 直近 1 週間の新規陽性者数の前週比は 7.6 倍となっている。
- ✓ 一般病床の使用率は 94.1%となっている。
- ✓ 直近 1 週間の人口 10 万人あたりの新規陽性者数は 598.27 人で、全国ワースト 1 位の状況。
- ✓ 全県的に感染が拡大しているが、特に名護市、宮古島市、宜野座村では直近 1 週間の 10 万人あたりの新規陽性者数が 1,000 人を超えており、大きな流行となっている。
- ✓ 新規感染者に占める 60 歳以上の割合は前週に比べて増加しており、注意が必要である。
- ✓ 患者受入医療機関の就業制限の数は 628 件となっており、急激に増加している。
- ✓ 年末年始の会食等の影響により、1/3 の週の飲食店が推定感染源となっている感染者数は 386 人と急増している。
- ✓ 1/3 の週の移入例の陽性者も前週から大きく増加しており、年末年始の往来の増加、県外からの来訪者との交流が影響しているものと思われる。
- ✓ 沖縄県疫学・統計解析委員会の報告によると、急速な感染拡大であるため、従来の方法で疫学的に意味のある実効再生産数の推計は困難とのこと。
- ✓ 年代別では 20 代が 50%程度を占めており、これまでになく若者に陽性者が集

中している。

- ✓ 宮古・八重山で診断された 714 名について重症度を確認したところ、40 歳未満では酸素投与を要する症例はなく、80 歳未満の 97.9%が無症候または軽症であるものの、80 歳以上では 30.8%が酸素投与を要する状態であった。
- ✓ 今後の見込みとしては、感染者数の増加は続き、1 週間あたりの新規陽性者が 15,000 人を超えるものと見込まれる。

(4) 宿泊施設の運用状況について【資料 4】

- 総括情報部から、宿泊施設の運用状況について報告。
 - ✓ 那覇市は 3 カ所が稼働しており、合計 331 人が療養中である。
 - ✓ 中部では 1 カ所が稼働しており、54 人が療養中である。
 - ✓ 他の地域については、北部で 47 人、宮古で 29 人、八重山で 34 人が療養中となっている。
 - ✓ さらに、1/19 に新たな宿泊療養施設を稼働させる予定となっている。
 - ✓ また、新たな入院待機ステーション（30 床）が 1/12 から稼働している。

(5) 沖縄県人口変動状況について【資料 5】

- 総括情報部から、沖縄県人口変動状況について報告。
 - ✓ まん延防止等重点措置が 1/9 から適用されたことに伴い、繁華街エリア、商業エリア、空港エリアの全てで人流が減少している。

(6) クラスターの発生状況について【資料 6】

- 時間の都合上、説明を割愛。

(7) 宮古・八重山地域の感染状況について【資料 7】

- 宮古地方本部から宮古地域の感染状況等について報告。
 - ✓ 宮古地域では人口 10 万人あたりの新規陽性者数が 1,000 名を超えている状況である。
 - ✓ 年代別で見ると、20 代から 40 代の陽性者が中心であるが、高齢者や 10 代の割合も増えてきている。
 - ✓ 中等症者数は 10 名程度となっており、感染者の多さには少ない状況となっている。
 - ✓ 比較的早く症状が改善するため、宿泊療養施設での療養者数も増えてはいない。
 - ✓ 医師会、宮古島市の協力により、1/9 に接触者検査センターが設置されており、1 日に 300 件程度の検査を行っている。
 - ✓ 宮古保健所では管内の他機関の協力を受けながら疫学調査等を実施しており、当面の間は、一般窓口業務の制限も実施する。

- 八重山地方本部から八重山地域の感染状況等について報告。
 - ✓ 八重山では 1/12 までの 1 週間で 150 人を超える陽性者が確認されており、そのうち 22 名が入院となっている。
 - ✓ 八重山保健所においても、他機関からの協力を得て疫学調査を実施しているところである。
 - ✓ ただし、民間検査施設からの報告が遅れることがあり、速やかに報告がされるよう改善を要望しているところである。

(8) PCR 検査事業の状況について【資料 8】

- 総括情報部から、検査事業実績について報告。
 - ✓ エッセンシャルワーカー定期 PCR 検査の実績について、1/3~1/7 は、介護関係者 3,911 人が受検した結果、7 人が陽性であった（陽性率 0.18%）。また、

障害者施設関係者 567 人が受検した結果、陽性者は確認されなかった。

- ✓ 安価な PCR 検査補助の実績について、12/31～1/6 は 2,413 人が受検した結果、陽性者 177 人、陽性率 7.34%であった。
- ✓ ワクチン検査パッケージの実績について、1/1～1/7 は 2,282 人が受検した結果、陽性者 49 人、陽性率 2.15%であった。
- ✓ 一般無料検査の実績について、1/1～1/7 は 9,613 人が受検した結果、陽性者 171 人、陽性率 1.78%であった。
- ✓ 学校 PCR 検査の実績については 468 人（16 校）が受検した結果、陽性者 5 人、陽性率 1.07%であった。

（9）ワクチン対策チーム進捗状況報告について【資料 9】

- 総括情報部から、住民向けワクチン接種進捗状況等について報告。
 - ✓ 1/11 時点で 1 回目のワクチン接種が完了した人は 1,040,105 人となっており、接種率（県全体）は 70.0%となっている。
 - ✓ 1/11 時点で 2 回目のワクチン接種が完了した人は、1,026,000 人となっており、接種率（県全体）は、69.1%となっている。
 - ✓ 1/11 時点で 3 回目のワクチン接種が完了した人は、17,291 人（※内高齢者は 2,600 人）となっており、接種率（県全体）は、1.2%となっている。
 - ✓ 各市町村において高齢者に対するワクチン接種が開始されており、県も県医師会、看護協会、薬剤師会、琉大病院へ協力依頼を行った。
 - ✓ 5～11 歳の小児については、3 月から希望者に対し接種を開始する予定である。

（10）空港 PCR 検査プロジェクト・TACO・RICCA の運用状況等について【資料 10】

- 文化観光スポーツ部から、空港 PCR 検査プロジェクト・TACO・RICCA の状況につい

て報告。

- ✓ 空港 PCR 検査プロジェクトについて、1/3 の週の受検者は 5,759 名で、その内 29 名が陽性であった。
- ✓ 那覇空港抗原検査について、1/3 の週の受検者は 1,605 名で、その内 9 名が陽性であった。
- ✓ TACO について、1/3 の週のサーモグラフィー通過者は 222,282 人で、その内発熱者は 1 人であった。
- ✓ RICCA について、1/7 時点の登録者数は 129,715 人となっている。
- ✓ 那覇空港及び離島空港において、12/25 から県民を対象とした無料検査を開始した。
- ✓ 那覇空港では PCR 検査の枠を 300 から 500 に拡充したほか、抗原検査の枠を 1,000 件に拡大する予定である。
- ✓ 宮古空港及び新石垣空港では検査の迅速化を図っており、翌日までに結果を通知できるようになっている。
- ✓ 検査数についても、宮古空港及び新石垣空港では 1 日 100 あたり 150 件、久米島空港及び下地島空港では 1 日あたり 100 件に拡充されている。

(11) 各部局の取組状況について【資料 11】

➤ 総括情報部から、中部地方本部の取組について報告。

- ✓ 疫学調査の強化のため、1 月 15 日(月)から(公社)沖縄県看護協会等に疫学調査等の委託業務を開始したほか、県職員の動員を実施している。
- ✓ また、1 月 17 日(月)～1 月 21 日(金)まで、生活衛生・食品衛生・医事薬事・環境保全に関する窓口業務の一時休止(その後は適宜検討)し、新型コロナ対応を実施する。

(12) その他報告事項について

- 病院事業局から、県立病院の状況等について報告。
 - ✓ 1/12 時点の県立病院の入院患者数は 130 人であり、新型コロナ病床の稼働率は 58.6%となっている。
 - ✓ 中部病院からは、職員も含めた院内感染が発生しており、隔離などの拡大予防を実施しているとの報告があった。
 - ✓ 南部医療センター・子ども医療センターからも、看護師の休業が増えており、検査や手術の延期を検討しているとの報告があった。
 - ✓ 県立病院職員が濃厚接触者となった場合の取扱いについては、原則として厚労省事務連絡「医療従事者である濃厚接触者に対する外出自粛要請への対応について」令和3年8月13日(8月18日一部改正)に基づき、毎日、抗原検査を行い、陰性が確認された者は就業できることとしている。
 - ✓ 県立病院職員に対するワクチンの追加接種について、1月中にはほとんど修了する見込みである。

(報告(1)から(12)に関する発言について)

- ✓ 沖縄県疫学・統計解析委員会の報告によると、渡航後に陽性であることが確認された人の数は、先々週が 10 名未満であったのに対し、今週は 100 名を超えており、本土でも流行が始まっていると推測されることから、空港検査については県民だけでなく県外からの渡航者についても無料で検査ができるよう国に働きかける必要があるとの意見があった。
- ✓ 医療従事者の3回目接種状況について質問があった。
 - 総括情報部から、県内の医療従事者の内、発熱外来等での従事者から3回目接種が進められていること、医療従事者で3回目接種を完了しているのは2割程度であることを説明。

- ✓ 高齢者施設等でのワクチン接種状況について質問があった。
 - 総括情報部から、高齢者への速やかなワクチン接種に取り組んでいるところであり、1/11 時点で高齢者施設の高齢者 2,600 人への接種が完了していることを報告。
 - 子ども福祉保健部から、総括情報部と連携して県内施設に対しワクチン接種の協力について要請を行ったほか、職員の派遣等の要請があった施設に対する支援について調整を行っていることを説明。

3 その他

(1) 沖縄県対処方針の一部変更について

- 総括情報部から、沖縄県対処方針の一部変更について説明。
 - ✓ 国の事務連絡の変更に伴い、沖縄県対処方針について一部変更を行った。
 - ✓ 感染防止対策認証店の営業時間短縮について、次の①又は②のいずれかで対応するよう要請する。
 - ① 営業時間は5時から21時まで ※酒類の提供は、11時から20時まで
 - ② 営業時間は5時から20時まで ※酒類の提供は行わない
 - ✓ 上記①の対応をとった認証店に対する協力金は2.5万円/日、②の対応をとった認証店に対する協力金は、非認証店と同様に3万円/日となる。

(2) 学校 PCR 検査の取扱いについて

- 総括情報部から、学校 PCR 検査の取扱いについて説明。
 - ✓ これまで、学校で陽性者が確認された場合、濃厚接触の有無に関わらず学級全体に対して PCR 検査を実施してきたところである。
 - ✓ しかしながら、新型コロナの急速な感染拡大のため検査機関が逼迫し、迅速な

検査が困難な状況である。

- ✓ そのため、当面の間、学校 PCR については濃厚接触者のみに実施することとした。
- ✓ なお、保育施設については濃厚接触者の区別が難しいことから従前どおりの対応を継続する。
- ✓ また、検査数の確保のため県外検査機関の活用についても検討しており、関係機関との調整を実施している。

➤ 教育委員会から、児童生徒等や教職員の新型コロナウイルスの感染が確認された場合の対応について説明。

- ✓ これまで、学校で陽性者が確認された場合、学級閉鎖、接触者等の出席停止の措置をとっており、その解除については学校 PCR 検査の結果及び発熱等の風邪症状の有無により判断を行ってきたところである。
- ✓ しかしながら、検査機関の逼迫により、学校 PCR 検査の対象を濃厚接触者に限定することとなったことから、学級閉鎖、出席停止の解除については、発熱等の風邪症状の有無を確認した上で判断することとした。
- ✓ また、教職員が接触者となった場合については、「感染者との最終接触日の翌日から 72 時間経過した後に、発熱等の風邪症状がないこと」または、「接触者センター等における検査結果（陰性）と発熱等の風邪症状がないこと」のどちらかを目安に判断を行うこととしている。

(3) 濃厚接触者の就業制限緩和について

➤ 企画部から、濃厚接触者等の就業制限緩和について報告。

- ✓ 航空会社から、従業員の感染、濃厚接触者の増加により運航に支障をきたしていることから、医療従事者と同様の取扱いにより、休業期間の短縮を図りたいと

の要望が出されている。

- ✓ これを受けて、休業期間の長期化により県民生活に支障をきたす恐れのある事業について調査を行ったところ、水道、ガス等のライフラインをはじめとした 47 業種について、休業期間の短縮を図る必要があるとの意見が出されている。
- ✓ 以上の状況から、医療従事者以外の県民生活に支障をきたす恐れのある事業者に対する就業制限の緩和を検討する必要がある。

(4) 国立感染症研究所による沖縄県のオミクロン株確定例の濃厚接触者疫学調査により得られた情報について

- 総括情報部から、国立感染症研究所による沖縄県のオミクロン株確定例の濃厚接触者疫学調査により得られた情報について報告。
- ✓ 国立感染症研究所により、オミクロン株確定例の濃厚接触者（124 名）に対する疫学調査の結果、次の情報が得られた。
- ✓ 濃厚接触者（124 名）のうち、25 名の陽性が確認された。
- ✓ 陽性が確認された 25 人のうち、19 人は同居家族であり、家族内の感染が多いことが示されている。
- ✓ また、濃厚接触者と判断されてから発症するまでの期間の中央値は 3 日であった。

(5) 在日米軍における新型コロナウイルス感染症対策について

- 知事公室から、在日米軍における新型コロナウイルス感染症対策について報告。
- ✓ これまでの県からの要請に伴い、出国前 72 時間以内の PCR 検査、入国後 24 時間以内の検査、入国後 5 日以内の検査が実施されている。
- ✓ また、入国後 14 日間の行動制限、施設内でのマスク着用の義務化が実施されている。

- ✓ 新たな対応としては、1/10 から 1/24 までの期間、基地外については必要不可欠な活動のみに制限されることとなった。
- ✓ 一方で、施策検討のため基地外に居住する米軍関係者の人数等の情報が必要であるが、米国側から提供されていない状況であるため、検疫法、入管法の適用のための日米地位協定の見直しについて国へ働きかけることを検討している。

(その他 (1) から (5) に関する発言等について)

- ✓ 総括情報部から、濃厚接触者の就業制限について、国に対し就業制限期間の緩和、濃厚接触者の定義の見直し、就業制限解除の判断に必要な検査キットの確保を要望していることを説明。

4 閉 会